

Q6：「学校を核とした地域づくり」とはどのようなことか教えてほしい。

A： 学校という場を核とした連携・協働の取組を通じて、子どもたちに地域への愛着や誇りを育み、地域の将来を担う人材の育成を図るとともに、地域住民のつながりを深め、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図り、地域づくりを行っていくことである。

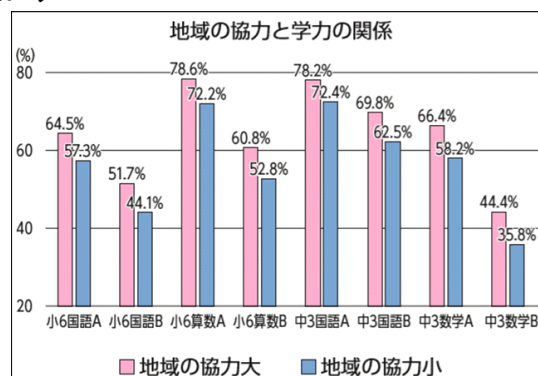
例として、学校支援ボランティアの活動を通してボランティア同士のコミュニケーションが図られるようになり、地域の人間関係づくりにつながったなどが挙げられる。

◇ **学校を核とした地域づくりを推進するために**

1 **「学校づくり」と「地域づくり」のつながり**

地域とのつながりが、学力をはじめ、子どもたちにもプラスに影響することは調査等からも明らかになっている。つまり、よい「地域づくり」をしていくことが、よい「学校づくり」につながっていると考えられている。

また、「学校づくり」に保護者や地域住民が関わることは、子どもだけでなく、大人自身の育ちや「地域づくり」にもつながり、「学校づくり」と「地域づくり」には密接な関係性がある。



H26 国立大学法人お茶の水女子大学調査

(H28 地域連携教員活動支援リーフレットに掲載) より

2 **目標やビジョンの共有**

「学校づくり」と「地域づくり」は密接につながっていることから、どんな子どもに育てたいかは、学校と地域の共通課題となるため、学校に関わる大人たち同士で、そのビジョンを共有していくことが肝要になってくる。一方的に、地域が学校・子どもたちを応援・支援するという関係ではなく、子どもの育ちを軸として、学校と地域がパートナーとして連携・協働し、意見を出し合い、学び合う中で、地域も成熟化していく視点が重要である。

3 **「社会に開かれた教育課程」とのつながり**

「学校づくり」と「地域づくり」をつなぐには、教育課程とつながることが有効である。新学習指導要領では「社会に開かれた教育課程」の実現を理念として掲げており、学校を核とした地域づくりと密接に関連している。学校内だけではなく保護者や地域の人々等を巻き込んだ「カリキュラム・マネジメント」の確立が重要である。

4 **学校の具体的な取組**

学校支援活動や地域学習等での保護者や地域住民との連携・協働だけでなく、地域の中で子どもたちに出番や役割を積極的に設け、活躍を承認していくという「学校から地域へのベクトル」も含んだ取組を展開していくことも重要である。例としては以下のような活動が挙げられる。

- ・ 地元の資源や産業に関する体験活動（例：農業体験や伝統工芸に触れる体験等）
- ・ 地域の活性化についての児童生徒の企画提案（例：特産物を生かした新商品等）
- ・ 郷土芸能、民俗行事などの体験（→後継者の育成に）
- ・ 地域の高齢者福祉施設や障害者施設でのボランティア活動や交流活動

【参考資料】

- ・ 地域学校協働活動推進のための地域コーディネーターと地域連携担当教員職員の育成研修ハンドブック H29 国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター
- ・ 新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申） H27 中央教育審議会